

来・ぶ ら り



《奈良絵本 志賀物語(下)》 龍谷大学図書館所蔵
一冊 挿絵五図
この絵本は、紅色地の題箋に「志賀物語下」と墨書されていることから、恐らく上下二冊あったと思われるが、下巻一冊だけが現存する。室町時代のお伽草子で、全国で四本しか知られていない。

図書館の設備について思うこと

口 羽 益 生

38年前のことである。フルブライト留学制度のおかげで米国東部のコーネル大学の大学院で学ぶ機会を得た。当時、コーネルでは7階建のオリム総合図書館ができて間もない頃であった。書庫は開架式で、ほこりひとつなく、その周囲には院生用デスクがあり、書庫がまるで院生用研究室のようであった。図書の出し入れのサービスも至れり尽くせりであった。部門別に分けられた各階の4隅に雑誌室があり、コピー機がなかった当時、隣室にコイン・タイプライター室があった。図書館の連絡ネットワークが整っていて、西海岸の大学図書館の書物を郵送で借りることができたし、著名な学者の活字になる前の謄写刷りの薄い論文が丁寧に製本してあるのを見て驚いたことがある。

ある日、東南アジア地域研究所を視察に日本から来られた恩師臼井二尚先生を、この図書館に案内したら「素晴らしい図書館だ。だけど、こんなに良い環境で研究すれば、世界的な学者が大勢育ちそうなものだけど、そうならない所が面白いね」と言われた時のことがいまでも心に鮮やかに残っている。

それから4年後、龍谷大学に永くおられた恩師棚瀬襄爾先生が急逝され、先生の学位論文『他界観念の原始形態』(959頁)を1周忌までに編集出版する仕事を行った。この書物には、515の民族資料の事例が分析のために収録されているが、先生はその収集のために多くの図書館を訪ね回り、この本を足で書いたと言っておられた。いまや日本の大学図書館の連絡ネットワークは完備して、龍谷大学の図書館からも他大学所蔵の雑誌論文のコピーが労せずして得られるようになったが、そんな事を思うたびに、私には臼井先生のコーネルでの感想が思い起こされるのである。

(社会学部長)

目次

図書館の設備について思うこと	社会学部長 口 羽 益 生	1
貴重書の宝庫—大宮図書館所蔵—写字台文庫		2
日本最大のコレクション—深草図書館所蔵—長尾文庫		4
瀬田図書館10年の歩み 所蔵館から情報館へ !!		6
図書館が私に教えてくれたこと (経済学部3回生)	大 田 和 則	8
図書館利用上級者の手引き (国際文化学部3回生)	安 永 郁 子	

貴重書
の宝庫

写字台文庫

大宮
図書館蔵

「写字台文庫」とは、もと本願寺にあって本願寺歴代門主が収集し伝持されてきた書籍の総称で、現在その大部分が龍谷大学図書館に移譲せられ収められている。その内容は、仏教に関する書物が多いが、それ以外に文学、歴史、社会、自然科学など日本や中国で書写されたり刊行された図書を網羅している。その総部数は一万余点、約四万二千冊とされるが、ただ量において多数であったばかりでなく、質においてもまた優れたものが多かった。このことは、龍谷大学図書館蔵書中の貴重書四千余冊の大部分が写字台文庫本によって構成されていることから知られる。



写字台文庫のいわれ

龍谷大学大宮図書館の展観室には、その入口内壁上に端正な隸書で「寫字臺文庫」と書写刻成せられた一枚の扁額が掲げられている。これは、本願寺第20代門主広如上人（1789～1871）の染筆になるもので、蔵書の整理と書庫の完成を記念して門主自らが命名したことが裏面に記されている。

写字台とは、歴代門主の便殿（日常の居室）の名称であったが、この名は、「唐の太宗が広く天下に善本を求め、繕写して内庫に蔵めたその書庫を写字台と称した」という故事にならって名づけられたものである。即ち、写字台文庫とは「門主常用の文庫」の意味を含んでいるのである。この写字台の呼称は、広如上人以前から存在しており、歴代門主中で特に図書の蒐集に力を注がれた第17代法如上人（1707～1789）の命名とも言われている。

歴代門主の集められた図書を散逸させないために、広如上人は、家臣に命じて、図書の分類目録の作製、閲覧規則の制定などを行わせた。この事業は、江戸時代のわが国にあっては画期的なもので、1846から1856に至る10年間をかけて完成した。この完成時に書かれたのが「寫字臺文庫」の扁額といえる。

写字台文庫の移譲

本文庫が龍谷大学に移譲されたのは、明治になってからのことで、明治25年2月と明治37年11月の二次にわけてなされている。大学林時代で、正確な冊数は不明であるが、第二次の寄贈記録によると宗派の学問である真宗学や仏教学研究を一層深めるために、歴代門主の収集された蔵書を龍谷大学に寄贈し、開放することで大学に学ぶ学生を援助しようとした姿勢がうかがわれる。

現存する写字台文庫をみると、中国の書籍の購入は、長崎を通じて輸入されている。これは、長崎において幕府が買い上げた後、一般の人々にも図書など輸入品の購入が許可された時、仏教関係図書以外の自然科学書特に医学書を多く購入していることは、歴代門主の見識を示すものである。

写字台文庫の概要

写字台文庫の所蔵内容は、古くは鎌倉・南北朝から始まっている。とくに鎌倉、室町期のものは内典（仏教関係図書）のものが多く、その中でも浄土教関係のものが首位を占めている。写本では寛喜2年親鸞聖人書写本の写しである『唯信鈔』一卷がある（親鸞の門弟の書字と推定）。次に本願寺第三世覚如上人の自著自筆の『口伝鈔』三卷（応永三年筆）も親鸞聖人関係の重要資料である。さらに版本では、恵心僧都源信の著『往生要集』（建長五年版）三卷六冊がある。本書は撰述後、ただちに宗国に送り、彼の地の人の礼讃をうけたという、いわゆる遺唐本の履刻である。次に親鸞聖人の恩師法然上人の法語を、上人の孫弟子望西楼了恵が筆録して、元亨元年（1321）に出版した『黒谷上人和語燈録』七卷七冊がある。本書は平仮名交り版本の現存最古のものとして珍重されている。

室町期に入ってから、内典と共に外典（仏教関係以外の図書）の入蔵が盛んになっていることは注目に値する。和書では「源氏物語」に関するものが数多く入蔵している。さらに応安四年（1371）沙門覚一の跋文を有する『平家物語』十二卷十二冊があり、室町期書写の『枕草子』一冊、『つれづれ草』（延徳二年平忠重写）一冊と共に研究者の注目の的となっている。



写字台文庫に含まれる代表的貴重書

平家物語

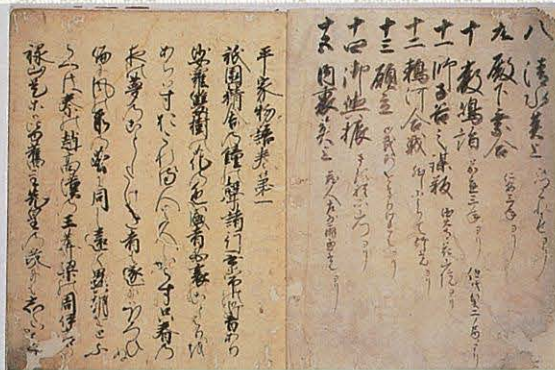
(龍谷大学大宮図書館所蔵)

●写本12冊

『平家物語』の諸本は膨大な数にのぼるが、平曲の語りの詞章としてつくられた語り本系統と、読むために増補された増補系統に大別され、さらに語り本系統の諸本は平曲の流派の別から一方(いしかた)流諸本と八坂流諸本とに区分される。

ここに紹介する写本12冊は、いわゆる、語り本系統の一方流に属する本で、『平家物語』12巻の他に灌頂巻を付載し、その末尾に沙門覚一(かくいち)の本奥書を有する覚一本の一本である。

本書は岩波書店発行の日本古典文学大系「平家物語」の底本となった。



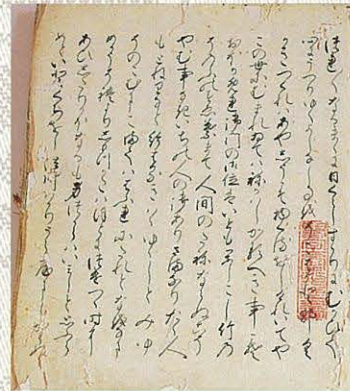
延徳本つれづれ草

(龍谷大学大宮図書館所蔵)

●上巻1冊 延徳2年(1490)写 吉田兼好作 平忠重写

徒然草は、枕草子と共にわが国の随筆文学の双璧として、成立して以降日本人に広く愛読され親しまれてきた作品である。短い断章の中に豊かな人間味と、生きる問題の深さを教えてくれるものがある。

本書は数多い流布本の中の延徳本といわれ、きわめて価値あるものであるが下巻が存在しないのが惜しまれる。



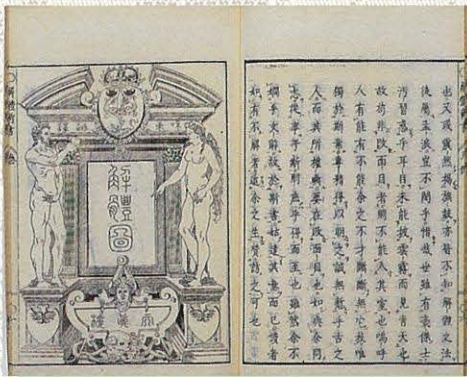
解体新書

(龍谷大学大宮図書館所蔵)

●5冊 安永3年(1774)刊

杉田玄白・前野良沢・中川淳庵著 小田野直武画

わが国最初の西洋解剖書の訳本である。前野良沢を主に、杉田玄白・中川淳庵らが桂川甫周らの協力を得て翻訳にあたり、安永3年(1774)に刊行された初版本である。原典は、ドイツ人ヨハン・アダム・クルムスの「解剖図譜」の独蘭訳「ターヘル・アナトミア」である。本文4巻附図1巻からなる。日本医学の発達に偉大なる貢献をしたという貴重な史料。

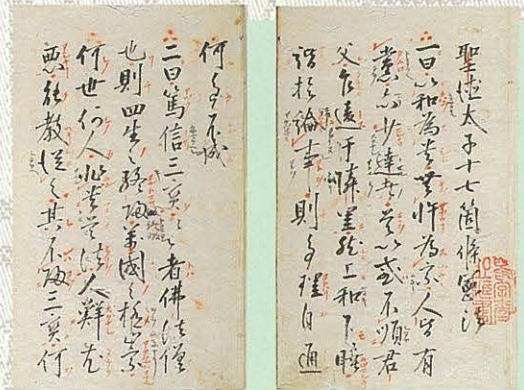


十七箇条憲法

(龍谷大学大宮図書館所蔵)

●写本1巻1冊 聖徳太子作

日本最古の理論的政治思想を示す文章。『日本書紀』推古天皇12年(604)4月条に「皇太子、親ら肇めて憲法十七条造りたまふ」(原漢文)とあって、その次に十七条の全文が掲げられており、これによって古来聖徳太子の作とされてきた。



日本最大のコレクション

「深草図書館において、1 番の特徴とは何か？」と聞かれた場合、我々深草図書館員は迷わず「長尾文庫だ！」と答えるでしょう。それほど、長尾文庫と言う資料は重要でかつ有用な資料なのです。ここではその『長尾文庫』について取り上げ、皆さんの利用を促したいと思います。

長尾文庫って何??

長尾文庫とは、社史を中心に団体史・産業史・人物史・定款・営業報告書・広告資料等を加えたコレクションで、これらは株式会社大長水産取締役・長尾隆次氏が1950年から1983年までの約30年間にかけて個人的に収集されていたもので、1983年に龍谷大学が購入し、深草図書館で所蔵するに至ったものです。

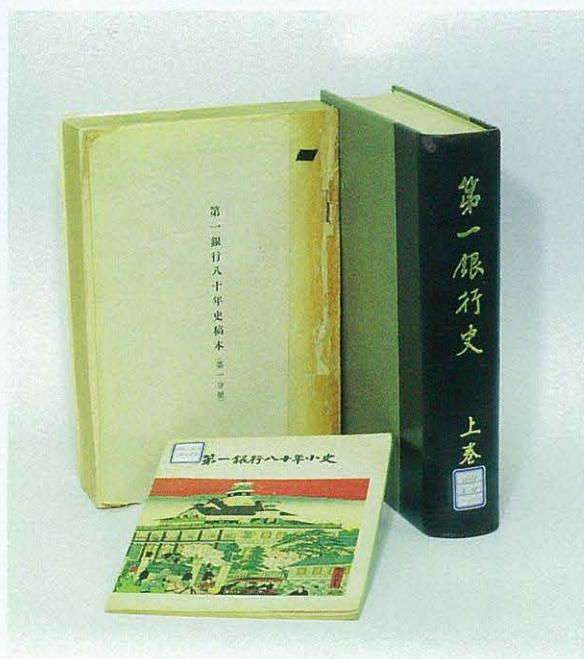
この長尾文庫は、社史・産業史・団体史における日本最大の総合コレクションであり、質・量ともに全国屈指のものと評価が与えられています。特に現存する社史（幕末から1985年）の約70%が所蔵され、その収集範囲は、北は北海道、南は沖縄まで全国各地に及んでおり、近代の経営史における資料的価値はこのほか高いといわれています。この長尾文庫のコレクションは現在もなお、ますます増え続けています。



長尾文庫の社史の一部

なぜ龍谷大学にあるの??

第一銀行の正史(右上)、稿本(左上)、ポケット社史(下)



これらの資料は、長尾氏個人の所蔵でしたが、マスコミで報道される度に研究者の利用要求が高まり、長尾氏はその対応に追われることとなりました。こうした研究者の利用要求を満たし、併せてこれらの膨大な資料の有効活用を計ることが収集者としての社会的責任と考えるに至った長尾氏は、研究機関への譲渡を決意。その譲渡先について関西で生まれ育った長尾氏としては、どうしても関西の地に永久保存し、広く研究に利用を許される大学に決定したいと考えていました。そのような中で、長尾氏の恩師にあたる小林袈裟治氏（当時、本学教授）をはじめ、本学関係者のこのコレクションに対する価値観および社史・企業資料等が経済・経営の諸分野の研究に不可欠、かつ極めて重要であるという強い認識に感服され、本学への譲渡を決意されたのです。

長尾文庫

— 深草図書館所蔵 —

どんな資料があるの??

この長尾文庫には、完成された社史だけでなく「ナマ資料（1次資料）」や「稿本社史」「引札」等、様々な形態の資料があります。

社史をつくるには、まず企業の足跡を裏付ける資料がなければなりません。この資料を「ナマ資料」と言います。このようなナマ資料をもとに、社史の第1次原稿としてまとめたものを「稿本社史」と言います。これは社史編纂のスタッフが、現実のナマ資料をもとに、事実に忠実に書き上げているため、研究者の間では特にこの稿本社史の類が高く評価されています。

「引札」は江戸中期から明治末頃にかけての広告媒体の一種で、主として都市部の商店などが宣伝広告のため、お得意さんに配布した一枚摺りの印刷物です（右上図参照）。

このように長尾文庫には様々な資料約15,500点（1997年度末現在）があり、その中には『日本銀行沿革史』第三集（全20巻）、『稿本・三井物産株式会社100年史』（上・下）、『鈴木商店支配人室重要書類綴』（鈴木商店：日商岩井の前身）等、入手困難な資料も含んでいます。



上野共同競馬会社開業式の図(明治20年)

どうすれば利用できるの??

長尾文庫を検索する手段は、①「検索用端末」②「龍谷大学図書館所蔵長尾文庫目録」の2通りあります。これらを併用して検索することができます。

長尾文庫は深草図書館新館閉架書庫の中に配架されているため、学部生の皆さんは直接取りに行くことができません。利用を希望される場合は深草図書館1階カウンターへお申し込みください。また、長尾文庫は相互貸借対象外の資料ですので、大宮学舎・瀬田学舎の皆さんは、直接深草図書館までお越しください。



長尾文庫目録(左下)、長尾文庫目録・増補改訂版(右上)

所蔵館から情報館へ！

瀬田図書館10年の歩み

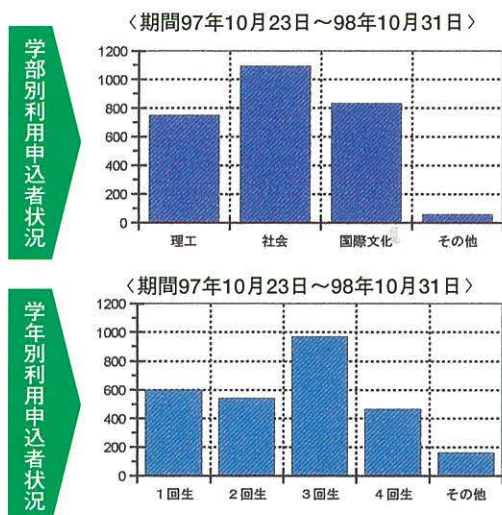
- | | |
|-------|---|
| 1989年 | 瀬田キャンパスオープン
2 学部（理工学部4学科、社会学部 2 学科）でスタート
瀬田図書館オープン
（OPAC＜蔵書検索端末＞導入、資料の全面開架、AV＜視聴覚＞コーナー設置） |
| 1996年 | 国際文化学部新設
瀬田図書館新館増設（マルチメディアコーナー、AVホール設置） |
| 1997年 | LIB-net（リブネット）オープン
（インターネットコーナー、CD-ROMサーバー設置） |
| 1998年 | Web（インターネット）版「OPAC・新着図書リスト公開」スタート
社会学部学科改組（2 学科から 3 学科へ：社会学部、地域福祉学科、臨床福祉学科）
Web版「電子ジャーナル」スタート（洋雑誌関連情報の提供） |

瀬田キャンパスは昨年開学10周年を迎え、各種イベントが華やかに開催されました。瀬田図書館の10年を振り返ってみますと、それは「蔵書の充実」と「日々高度化していく利用者ニーズ充足のための環境整備」の期間でした。

それでは、駆け足で、図書館の新しい試み（インターネットサービス）と「蔵書充実状況」をご紹介しますことにしましょう。

《インターネット（LIB-net）利用状況》

1997年10月からスタートした館内でのインターネットの利用サービス。約一年間の総利用申込者数は2,737人でした。利用申込者を学科別、学年別でみると下のグラフのような結果でした。



学部別でいえば瀬田キャンパス 3 学部の中で社会学部生が一番利用しているという結果がでました。

学年別をみると 3 回生の利用が突出しています。さらに、利用申込者の多い順に学部、学年を総合すると

- | | | |
|------------|------|-------|
| 1 位、国際文化学部 | 3 回生 | 501 人 |
| 2 位、社会学部 | 4 回生 | 283 人 |
| 3 位、社会学部 | 3 回生 | 249 人 |
| 4 位、社会学部 | 1 回生 | 228 人 |
| 5 位、理工学部 | 3 回生 | 199 人 |

という結果でした。

（なお、国際文化学部は 1 ～ 3 回生のみが在学中です）

利用時間帯については、利用度が最も高いのは12時台でその前後1時間及び15～16時台の利用者が多いことがわかりました。逆に利用者が少ないのは、9 時台、17 時台という結果でした。

そして、気になる？利用内容はというと

就職活動、レポート・卒論準備、娯楽、特に旅行・スポーツ留学関係が、主なものでした。

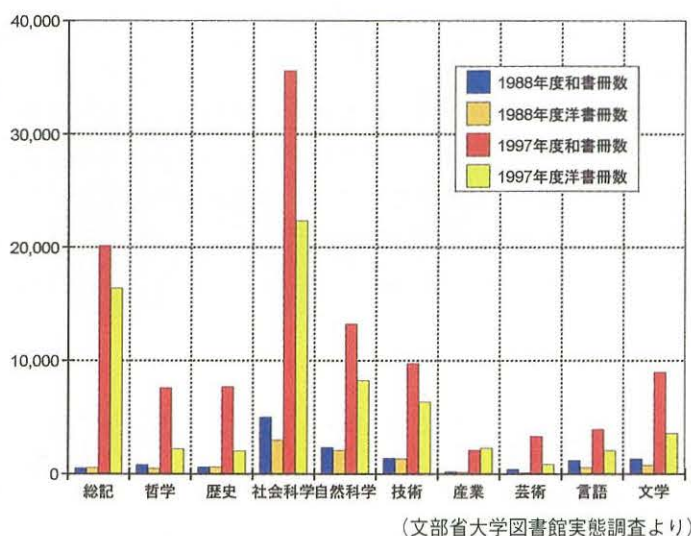
近く、インターネット端末を10台を増設する予定です。あなたもインターネットを利用してみませんか？

《蔵書の充実》

1989年4月当日の蔵書数は、和書・洋書合わせて23,481冊、雑誌は229種類（和雑誌117種類、洋雑誌112種類）からのスタートでした。

その5年後には図書総冊数が10万冊を突破、さらに、1998年3月31日の時点では図書が200,246冊、雑誌が962種類（和雑誌505種類、洋雑誌457種類）となりました。

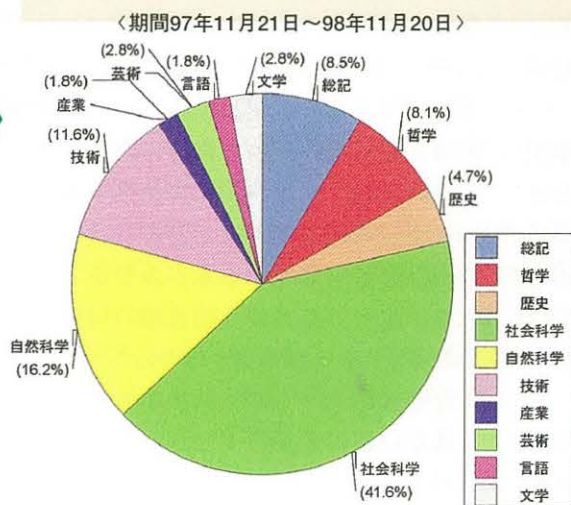
分類別
蔵書冊数



図書館開設当時と1997年度とを図書の分類別に増加冊数を比較してみると、左のグラフのようになっています。

国際文化学部が瀬田キャンパスに仲間入りしたのを契機に、自然分野、社会分野だけでなく、芸術・言語・文学等の人文学系資料の充実が急ピッチに進んでいるのも瀬田図書館の特徴の一つです。（総記が増加しているのは、コンピュータ関係及びシリーズ文庫が含まれているためです。）

分類別
貸出統計



左のグラフは、1997年11月21日から1998年11月20日の貸出統計を分類別に表示したものです。

総貸出数は、38,556冊。中でも社会科学系の社会福祉、教育、また自然科学系の化学で総貸出冊数の約三分の一を占めています。

図書、雑誌もずっと増えて成長を続ける瀬田図書館ですが、なんといってもまだ10歳。深草図書館の図書61万冊と雑誌約5,500種類、大宮図書館の図書57万冊と雑誌約6,100種類には遠く及びません。

もちろん、3館は協力し合っていますので、深草・大宮の図書を取りよせることや、雑誌の必要な部分のコピーを依頼して送ってもらうこともできます。

これからの瀬田図書館は、旧来型の紙形態の資料の収集・提供はもちろん、インターネット等の電子情報の収集・提供をも視野に入れた活動を展開していきます。どうぞ期待！

図書館が私に教えてくれたこと

大田 和 則

図書館とは、大きな「辞書」のようなものである。そこには膨大な情報・哲学・歴史が存在し、様々な価値観を我々に与えてくれる。勉学に励むにはとてつもなく重要な場所ではないだろうか。現に龍谷大学の学生はここから勉強の第一歩として、ゼミの始めの講義は図書館見学であるように、図書館の大切さがうかがえる。私自身、自分で言うのもなんだが、この図書館見学がきっかけではないが、結構利用している方ではないかと思う。とかいいながら、図書館内にある視聴覚室でビデオばかり見ている私には全くこんな事を言う説得力がない。しかし、図書館の利用の仕方、何を学び何を心得るかは人それぞれである。それは本の中からでも一本のビデオからでもよい。私は、小・中・高と出来が悪く、成績にしてもいつも下から数えた方がはよい、いわゆる「劣等生」というやつである。そんな私にも勉強をさせてくれる場所を用意してくれてい

るこの図書館はまさに極楽のようであった。今まで勉強に縁遠かったのが、まるで嘘のように机に向かう機会が増えた。そして、自分で文献を調べる楽しさ、物を書く楽しさ、人とふれあう楽しさをここで教えてもらった。と同時に、小学校の時から抱いていた、勉強を「やらされている」という感覚が「やっている」という感覚に変わっていった。やはり勉強というものは、自分が心の底からやろうという気持ちがなければ身に付かない。そういう環境を創る為に学生や図書館のスタッフが協力し合っていかなければならない。これは特に学生達に言いたい。せっかくこんな良い環境があるのに何もせずに卒業していくのは余りにも寂しい。何か一つでもいいから自分の「武器」となるものを卒業するまでにこの図書館で身に付けてほしい。この大きな「辞書」をどのように使いこなすかはあなた次第である。
(経済学部3回生)

図書館利用上級者の手引き

安 永 郁 子

私が通う瀬田キャンパスは、広大な敷地に多くの木々を兼ね備えた、駅からバスで10分程のところにある。木々の色づく校内は都会の騒音とは無縁のまさに勉学の場に相応しい。

が、裏をかえせば、何もない。20才そこそこの学生にとって休講が入るとその暇つぶしに困惑することさえある。談話室で友人と仲良くおしゃべりするのでもいい。けれどもここで私がお推めしたいのは「図書館」である。

さて、「図書館」といってもただ本が在るだけではない。皆さんは「図書館の正しい利用法」なるものを御存知だろうか。

大宮57万245冊、深草61万4776冊、瀬田20万246冊の蔵書は、特別な指定がない限りどの館でも貸出ができる。他大学への文献複写、外部データベース、インターネ

ットの利用、あるいは、他大学図書館利用の紹介状も発行してくれる。AVコーナーとして、ビデオやLD、CD等の利用も可能だ。これらがほぼ学生証1枚でできるのだから、定期試験前だけ「図書館」を利用するのは、もったいないというものである。

「図書館」には無限の可能性がある。それを知るにはまず足を運んでみる事だ。枕用の本を探していて何か好奇心をくすぐる本が見つかるかもしれない。それを手にとった時が「図書館の可能性」ひいては「自分の可能性」を知る第1歩なのだ。「図書館利用上級者」になるためにもまずカタチから始めてみるのもいいのではないだろうか。

(国際文化学部3回生)

インターネットにて図書館情報公開中！

蔵書検索や各館開館日程表ほか役立つ情報満載！

龍 谷 大 学 ホ ム ペ ー ジ

URL <http://www.ryukoku.ac.jp/>

龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第19号

1998年12月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612-0021 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-645-7885(ダイヤルイン)